

「特集」鉛・亜鉛鋳業

〈巻頭言〉……………白浜 仁吉…(1)

〈論壇〉……………(2)

鉛亜鉛自由化問題と
国際鉛亜鉛会議の動向 尾本 信平

〈座談会〉……………(5)

鉛亜鉛鋳業の現状と将来 西家 正起・尾本 信平
宮田 豁也・塚本 義郎
鐘尾讓太郎・村手 幾吉
樋口 重雄
司会 齋藤孝夫

〈論文〉……………(20)

鉛・亜鉛鋳業政策について 馬場 一也

〈私見〉……………(24)

鋳業政策所感 中村 幸八
鋳業政策はどうしたらよいか 松平 忠久
鉛・亜鉛随想 始関 伊平

〈解説〉……………(29)

内外鉛亜鉛鋳業の概観 調査部金属課
諸外国の鉛亜鉛鋳業の助成 齋藤孝夫
鉛需要の推移と新用途 清水直十
亜鉛の新用途 横山 炳
鉛亜鉛鋳業の合理化と技術上の問題点 技術部

統計資料

地金価格日米比較表……………	
鋳石等価格日米比較表……………	
生産実績その他(6月分)……………	
(A) 鋳山部門……………	
非鉄金属鋳物生産実績, 鉄属鋳物 生産実績, 非金属鋳物生産実績	
(B) 製錬部門……………	

《海外寄稿》..... (74)

- 鉛及び亜鉛の世界的動向 R. Lewis Stubbs... (71)
 鉱業の安定と国際協調の必要性 Holger Fangel... (74)
 世界におけるカナダ鉛亜鉛鉱業の地位 J. F. M. Douglas... (76)

《随 想》..... (85)

欧米を旅して 池上泰・秩序のある競争を 渡部行・天ぶらのタネ 和田忠朝・2000年前の鉛管 川北順之祐・鉛・亜鉛事業偶感 河上健次郎・思い出すままに 白杵正明・非鉄の自由化談義 高口政俊・私の履歴書 江口三千雄・鉛・亜鉛 山県四郎・百畳敷の鉛広間 山本見雄・鉱山のある町 相川道之助・鉛・亜鉛資源としての黒鉱 新井友蔵・採鉱は直観と推理と強気で 佐藤久喜・鉛・亜鉛の今昔 新海英一・管見 新庄宗雅

《グラフィックスライド》..... (105)

目で見る非鉄金属の自由化..... { 鉱業協会賞受賞
研究・千歳昌豊外

《国際鉛・亜鉛会議報告》国際商品協定討議の内容.....(119)

月間の動き.....(120)
 ニュース.....(122)
 協会だより..... (44)
 業界の要望意見..... (53)
 鉱山異聞.....(123)
 会議開催要覧.....(116)

..... (125) 貴金属, 主要非鉄金属, 非雑鉄金属
 (126) 製精錬所製品内訳
 (127) 原料受払総括表..... (129)
 (127) 銅 製 錬..... (129)
 鉛 製 錬..... (130)
 電気亜鉛製錬..... (131)
 (128) 蒸りゆう亜鉛製錬..... (132)

鉛山

》 KOZAN 《
 BULLETIN OF JAPAN
 MINING INDUSTRY
 ASSOCIATION

表紙の説明



○ 写真につき

この写真はロンドン金物取引所の取引風景であって、取引品目は銅、鉛、亜鉛及び錫の四つに分れている。

○ 鉛・亜鉛のシンボルたるマークにつき

鉛は、金、銀、真鍮、鉄、錫と共に古くから知られており、ホーマー、或いはごく初期の聖書中に、アラビヤ人からの戦利品の一部としてこれらの金属を得たこと、又これらの金属が、火を通して作られ純粋なものになることが書かれており、多分西暦紀元前15世紀頃には知られていたと言われる。アラビヤ人に親しまれた科学的知識は、ローマ帝国滅亡後、西欧の僧院に引きつがれ、一方この頃に、占星学、錬金術が栄え、星と金属とが神話の神々の名で神秘的につながり、今でも水銀をマーキュリー（天文学では水星、ローマ神話では商業、雄弁熱練の神）と呼んでいるのはよい例である。チョウサー(1340年~1400年)のキャンタベリー物語の一節に、星と金属との関係が書かれているが、それに星と金属とのサインを加えてみると次のようになる。

Sun (アポロ)	音楽健康の神	太陽	金	◎
Moon (ダイアナ)	処女性, 狩猟の神	月	銀	○
Mars	勇士, 軍神	火星	鉄	♂
Mercury	商業, 雄弁, 熱練の神	水星	水銀	♀
Jupiter	主神	木星	錫	♃
Venus	愛と美の神	金星	銅	♀
Saturn	時, 農業の神	土星	鉛	♄
Uranus	地球の夫	天王星	プラチナ	♅

惑星仲間で悪名高きサターンが、鉛とつながったのは、鉛の化合物に毒性の多いことによるのであろう。さて鉛のマークは一説には「時」のギリシャ語 Xporos(クロノス)の始めの2字をもちった形、他説では、農業の神のもつ大鎌の形とも言われる。金の◎は楯、鉄の♂は昔の兜と羽毛の房、又は楯と槍の組合せ、水銀の♀は、マーキュリーのもつ蛇が神杖にからまったカデウシヤス、錫の♃は、ジュピターの鳥である鷲が羽をひろげた形、銅の♀はヴィナスの手鏡を象形化したものと言われる。プラチナの♅は、鉄と一緒に存在すること、そして白金といわれることから◎と♂とを合成して作られた。さて亜鉛は、ギリシャでは、銀のにせ物(Pseudargyras)と言われ、亜鉛として知られる前は、鉄をとかず際にできる酸化亜鉛が知られていたことから、筆者の想像であるが、銀の○と鉄の♂とを合成して、プラチナ同様、あとで♅を亜鉛のマークとして作ったものであろうと思う。ロンドン金物取引所の壁には、写真で判かるように♀♃♄♅が並べられ、各金属が取引されている間、その金属のサインの電灯がきえている。なお合については、確かでないので、ロンドン金物取引所に照会中である。これらのマークは、今日でも地質図にサインとして使用され、その鉱物の存在を示すのに用いられていると言われる。これらのマークが金属、天文学のみならず、生物学、植物学にも使われることは、テレビのペンケーシーでおなじみであろう。(表紙デザイン君塚玲子、構成及び説明山本省吾)